



井上貴博衆議院議員と博多祇園山笠



おにきまこと政治塾



地域運動会



長住まつり



平尾天満宮秋季大祭



鳥廻橋でインターン生と街頭活動



日佐住吉神社夏越し祭



舞鶴校区夏祭り



西九州新幹線かもめ試乗会



ニューレジリエンスフォーラム

おにきまこと誠新聞



2022年10月発行



防衛副大臣 離任式

国民の命と暮らしを守る

衆議院安全保障委員長に就任

2021年10月に発足した岸田政権において、私は防衛副大臣という重要な職を任されました。在任中には、北朝鮮による度重なるミサイル発射、2022年2月にはロシアによるウクライナ侵攻、8月には中国が台湾を取り囲んで軍事演習を行うなど、日本を取り巻く安全保障環境はにわかに厳しさを増していきました。私は防衛副大臣として日本全国の自衛隊を視察し、これからの日本を守り抜くための体制整備に取り組んでまいりました。防衛戦略三文書を改定し、防衛予算を増やすことに着手しました。

2022年8月に防衛副大臣を離任した後、10月から始まった臨時国会において、私は衆議院 安全保障委員長に就任しました。この役職は、防衛省の予算と法案を審議する安全保障委員会の議事運営責任者になります。自ら手がけてきた防衛力整備を、予算や法律として実現させる仕事です。

この一年、引き続き防衛の仕事が中心になりますが、国民の命と暮らしを守る仕事に全力で取り組んでまいります。

中面では
防衛副大臣
在任中の
活動を紹介!!

衆議院議員 おにきまこと誠

おにきまこと誠の歴史



幼少時代
小学校の時の夢は、政治家になって「世界を平和にすること」。



学生時代
高校から続けるラグビー。その熱意でW杯を地元・福岡に誘致。



銀行員時代
銀行員として地域の現場で生きた経済や地域の実情を学ぶ。



政治家へ
30歳で県議会議員、40歳で衆議院議員となり実績を重ねる。

衆議院議員 おにきまこと誠 プロフィール

- 昭和47年10月 福岡市生まれ
- 田島小学校(城南区)卒
- ラ・サール高校卒
- 当仁中学校(中央区)卒
- 九州大学法学部卒

- 平成 7年~14年 西日本銀行(西日本シティ銀行) 渡辺通支店~大名支店
- 平成15年~24年 福岡県議会議員(3期10年)
- 平成24年12月 衆議院議員に初当選
- 平成26年12月 衆議院議員再選(2期目)
- 平成27年10月 環境大臣政務官就任
- 平成29年10月 衆議院議員再選(3期目)
- 令和 2年10月 少子化対策特別委員会 副委員長
- 令和 2年12月 「ひきこもり」の社会参画を考えるPT 幹事
- 令和 3年 1月 新型コロナウイルスに関するワクチン対策PT 委員
- 令和 3年10月 防衛副大臣就任
- 衆議院議員再選(4期目)
- 令和 4年10月 衆議院 安全保障委員長就任

日々の活動をSNSで配信しています!



衆議院議員 おにきまこと誠 後援会事務所

〒810-0014 福岡市中央区平尾2-3-15 2F
Tel.092-707-1972 Fax.092-707-1984 Mail: makoto@onikidon.com



防衛副大臣として 南太平洋の島々を歴史的訪問

2022
8.6~8.9

ソロモン諸島ガダルカナル島

パラオ共和国ペリリュー島

おにき誠の防衛副大臣として最後の仕事は、南太平洋の島嶼国・ソロモン諸島とパラオ共和国の訪問でした。ガダルカナルの戦い80年の慰霊式典に日本政府を代表して参列、ガダルカナル島やペリリュー島といった激戦地を慰霊訪問しました。中国が太平洋への進出をもくろむなか、南太平洋の島々は「自由で開かれたインド太平洋」を実現するためにも重要な存在です。ソロモン諸島ソガバレ首相、パラオ共和国セウゲバル副大統領との会談を行いました。

歴史的意義

その 1

太平洋の要衝であるソロモン諸島・パラオ共和国に、防衛省政務の初訪問

防衛省の政務(大臣、副大臣、政務官)がソロモン諸島やパラオ共和国を公務で訪れたのは初めてのことで



パラオ副大統領と閣僚

(両国は自衛隊のカウンターパートとなる軍隊を持たない国であるため)。太平洋の要衝となる両国を防衛省と自衛隊の高官が訪問し、防衛交流を行いました。

親日国パラオ

かつて日本の統治下にあったパラオでは、日本語による教育やインフラ整備が行われました。大戦時も日本軍はパラオの住民を避難させ、犠牲を最小限に抑えました。そんな経緯もあり、パラオは世界有数の親日国です。上皇上皇后両陛下がペリリュー島を慰霊訪問した4月9日は、ペリリュー州の祝日になっています。

ソロモン諸島の現状

ソロモン諸島は2022年4月に中国と安全保障協定を結びました。今後ソロモン諸島で治安が悪化すれば、中国の軍隊がやってきて駐留する可能性もあります。中国は近年、南シナ海などで他国の島を奪い軍事拠点化する動きを見せています。同様の事態が南太平洋で起きないように、国際社会が注視しています。

歴史的意義

その 3

ソロモン諸島のソガバレ首相と会談し 中国の進出・軍事拠点化を牽制

おにき誠はソロモン諸島のソガバレ首相と会談し、中国の軍事拠点化がないよう牽制しました。また新型コロナウイルス病床向けの陰圧隔離病室コンテナのODA(政府開発援助)の署名式にも立ち合いました。



ソガバレ首相と会談



ODA署名式

歴史的意義

その 2

かつて激戦を繰り広げた日本と 連合軍が手を握り、太平洋の平和を誓う

先の大戦で激しく戦った日本と連合軍(アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド)が一同に会し、互いの戦没者の御霊を慰霊しました。これから太平洋の平和を共に築いていくことを誓いました。



ケネディ駐豪大使と



各国政府・軍の高官と

九死に一生を 得たケネディ大統領

後にアメリカ大統領になったジョン・F・ケネディは、ガダルカナルの海戦で撃沈され、現地の方々に救助され一命を取り留めました。沿岸警備隊を讃える式典には、ケネディ大統領の娘であるキャロライン・ケネディ駐オーストラリア大使が参列され、救助してくれたソロモン住民のお孫さんへ特別な勲章が渡されました。おにき誠も各種式典に参加し、ケネディ大使と交流を深めました。

歴史的意義

その 4

先の大戦の激戦地であるガダルカナル島とペリリュー島を慰霊訪問

ガダルカナル島では2万人、ペリリュー島では1万人の日本兵が亡くなったとも言われています。「日本に帰りたい」と願いながらも亡くなった御霊に、鎮魂の祈りを捧げました。帰国直後の8月10日、帰国した御霊がお盆に故郷へ帰れるよう靖国神社を参拝しました。



ガダルカナル慰霊式典



ペリリュー島慰霊碑